

鷺見落城記

永正七年寅八月。美濃国山県郡大桑村之城主土岐美濃守頼芸公は数代の当国の守護職にてありける候。御家に齋藤山城守入道道三と云者、逆心依て天文年中に終に落城す。此時川手村に對面所とて陣屋有。是も同時に落城なり。国中は土岐氏之御一族御家臣多しと言得共、殊急なれば騎來る人少し。齋藤方は多勢なり、猶又土岐御家中にも二心の者ありければ、終に三日目に落城なり。二心亡き人も段々無勢に成りければ、無_レ是非降参して引もあり、討死して死するもあり、頼芸の御供して落行者もあり。東美濃の御勢は居城え引取給ふ成。先明智殿は御一族なれば直に討手引構て岐阜勢と相戦、子供衆叔父重兵衛に預けて明智殿御討死なり。深尾泉州殿は尾州織田氏に便りあれば、尾州を指て落行給ふ。山県殿は甲州武田晴信公に縁者あれば、御一族皆々甲府之方へ御越なり。鷺見殿は北野の城へ帰城して老臣中呼集え、色々御相談なり。此作州殿は元來武勇の人故、落行心なし。先妻子は民家に分預け、家中の老若は御領分村々へ預け、或は山奥へ送り、其上城中の諸道具戸障子畳等迄望次第に分とらせ、金銀米錢は名主に引渡し預け、人に応じ割渡しとらせらると、誠に明城にして齋藤の討手來らば直に腹切んと相侍れける時に、若者共申けるは、この満まに生害せん事残念也。一合戦して御主人の御供仕度段申ける。誠にあわれの次第なり。時に美作殿仰られけるは、いよいよ其旨ならば一軍す迎し。此

一城は地方ちかた悪しく此所を捨て大智寺山に引籠り、夫より三輪口に陣とり、てきを引請相戦べし、先北野前は三十町に五拾丁の広き田場なり。東は林山繁りて人数多少志れず。至極に宜敷陣場なりとて、大智寺門前より三輪山迄大旗指物あげて陣取ける。三輪口に白地のまく一町斗に張、是は身ずの小勢を隠す手立なり。其日九つ半時に早岐阜勢は五百騎斗押寄ける。

岩村山より見れば三輪口に軍勢見得ける故、互にときをつくり真一文字に広き畑中へ二の手成て押寄ける。作州は三輪口より一丁斗押出す。齋藤方の先陣を林道慶同重右衛門続て伊賀、近藤、佐藤、宇佐美、三田、川井等なり。北野勢には村井三郎左衛門、近松兄弟一番にすすみける。両陣互にぬき合半時許戦しが、矢先多ければ両陣より引や引やとよばりける迄に鎧弓太刀打繁く戦しが齋藤勢は広き所なれば手傷多し。終に二手になれば少勢なり。後は一手になりて見れ共、矢先多ければ難儀なり。キフ方より先引取れば、段々下知しければ互に両陣引分れける。早申の刻になれば二時計の戦に岐阜方には手傷討死百三十人斗拾一人は即死也。作州方にも手傷六人なり。日尽て漸々岩村山迄引取ける。大將道慶申けるは今日の合戦広所にみ方小勢にて難義なり、追々岐阜へ加勢を乞。明早朝も三輪口へ押寄相戦べしとて、其夜は岩村山に大かがり火をたき休足しける也。三輪口もかがりを焼て難計用心する也。作州初侍衆は大智寺へ引而宿陣するなり。時に作州被申けるは此方は少勢なれ共今日の

戦は十分の利なり。てき方は五百騎斗と見得けれ共、あすは十
ばいおしよせん。叶いぬ軍なれば今暁ハ我は切腹するなり。何
連もは勝手次第に落行べしと被申ければ、家中の各々何国迄も
御供仕度と申して、落延し人は一人もなし。然ば名残りに是よ
り酒えんの初、其後切腹致す辺しとて、夜のふけるまで酒えん
なり。夜明ては悪しかりしとて、夫より切腹の用意なり。時に
当寺和尚も是非も無事なりとて心静に生害あれと被申ける。作
州は漸々厚く御世話の御礼有て被申けるは、当寺にて席をけが
すは後日の難なり、東の林に入りて心能も生害致す辺しとて、
寺より一町斗東の成山に入て切腹致されける。忠心義士の御近
習侍十二人まで追腹切て死にさりけり。方丈才智の人なれば直
に御手向あつて、其所にうづみ、死がいを隠して仕廻給ふ。寺
中の僧立打寄て、墓に青き苔を植て薪をつみ隠しける。作州法
名岩松院天游元光居士御年五十三才。今に伝て大智寺に御像有。
拾二人の勇士も塚あり。残りし人々は大智寺のうら山より跡部
へ越て、大矢田辺は御領分なれば、武儀郡より郡上の方へ思い
思いに落行けり。松浦内膳と云者、岐阜頼討手の人たりしが北
野の城より北に当つて一筋の往来あり。此道え落行人打取ため
る。源瀬より椎倉村辺一色へ廻り出張す。此所に人家なければ
百姓共に言付、わら屋の大いなる小家を作らせて兵糧継い休足
す。此所今に伝て小家が洞と云なり。其夜あけがたに齋藤勢千
余騎斗、三輪口へ押寄見れば旗斗にて人は一人も無。さては夜
の内に落行たりとて、遠くは行ましとて所々へ手訳して尋けれ

共、出合者一人もなし。漸く昼六つ頃に大智寺に尋来て見れば、
何の沙汰もなし。和尚に対面して尋ければ、和尚仰には此程二
三日が間やかましければ門をしめて出入をせず一向様子志らず
と申されけれ共、心元なく思ければ、寺内ことごとく尽さがし
見れ共、見出す事あたわず。是非なく惣勢引返しけるなり。城
中は戸障子までなし。様々一色勢と一所にてなり。何の仕出し
無、其夜より明日迄に岐阜のへ引取、不残落行しと注進すれば、
討手の人々は大きに不首尾成りけり。然しながら智勇勝れし作
州なれば、齋藤もさして吟味もせず打捨をかれける。元来鷲見
殿は下野之国の城主也。性は藤原氏なり。相馬の乱に当国に来
り郡上郡に居住す。今に郡上には鷲見村と云所あり。三輪の西
入口を今に陣口と云うなり。岩村山の東を此時より勢引山と云
なり。作州の室は松影監物の娘なり。其後御領分に庵を繕て、
後尼になり七八年過て死去なり。御法名は松岳理貞大姉享禄七
年酉八月朔日当なり。子息方生長の後、芸州御家中にお勤、今
に其子孫あり。

寛政改元

宗固居士

写之